

農政の動き 2016年7月15日～7月20日

◇熊本地震で復旧不可能な水田 100～200㍏程度に◇

森山裕農相は閣議後会見で、熊本地震により復旧不可能な水田は100～200㍏程度まで低下できる見通しとなったと明らかにした。熊本県によると、2015年産の水稻作付面積4万4千㍏のうち、3万8200㍏は被害がほとんどなく、応急復旧で水稻の作付けが可能な水田が4300㍏、大豆などへの転換が可能な水田が800㍏程度となった。森山農相は、今後は一時的な農家所得の減少への対応や基盤整備などを強化する考えを示した。(15日)

◇15年産米 6月の相対価格は1万3265円◇

2015年産米の6月の相対取引価格(全銘柄平均)は、前月比64円減の60^キ。当たり1万3265円だったと、農林水産省が公表した。前年同期比では1197円(10%)高い。(15日)

◇安倍首相 日EU関係に「英国離脱の影響なし」◇

アジア欧州会合(ASEM)首脳会合に出席するため、モンゴル・ウランバートルを訪問した安倍晋三首相は、欧州連合(EU)のドナルド・トラスク大統領とユンカー欧州委員会委員長と会談した。安倍首相は、英国のEU離脱は日本とEUの関係に何の変化も及ばないと強調。日・EU経済連携協定(EPA)の年内大筋合意に最大限努力する旨を伝えた。EU側も年内妥結の決意を示した。(15日)

◇15年の外食産業市場規模 前年比2.2%増◇

日本フードサービス協会は、2015年の外食産業市場規模は前年比2.2%増の25兆1816億円(推計)と発表した。1人当たり外食支出額が増えたほか、訪日外国人の増加などが要因。うち「飲食店」は2.1%増の13兆4965億円で、ファミリーレストランや専門料理店を含む「食堂・レストラン」や「そば・うどん店」「すし店」が増加した。一方、ファストフードのハンバーガー店を含む「その他の飲食店」は減少した。(15日)

◇中国の長江流域 積算降水量最多で被害拡大◇

中国の長江中・下流域では4～7月中旬の積算降水量が過去20年で最も多くなったと、気象庁が世界の異常気象速報で明らかにした。中国政府によると8日までに洪水や土砂災害の死者が160人を超えている。同域の積算降水量は多いところで800^ミを超えており、51観測地点の平均積算降水量は、大規模な洪水被害が発生した1998年と比較しても「著しく大きな値」となっている。(19日)